

会 議 録

会議名	令和6年度第3回東浦町食育推進委員会	
開催日時	令和6年10月17日(木) 午後2時00分から午後4時00分	
開催場所	東浦町勤労福祉会館 会議室2	
出席者	委員	石川恭央氏、太田江美氏、林佑亮氏、水野雅宣氏、水野善久氏、山崎紀恵子氏、柴田裕子氏、間瀬千恵子氏
	事務局	成田健康課成人保健係長、青山健康課成人保健係主事、水野農業振興課農政係長、鶴島農業振興課農政係主事、村上商工振興課長補佐兼商工観光係長、鈴木商工振興課商工観光係主事
欠席者	園田祐美子氏、田島由美子氏	
議題等	1 食育体験プログラムの報告と反省について 2 令和7年度の取組について 3 令和6年度産業まつりについて	
傍聴者の数	0名	
審議内容	<p>◆事務局 ・あいさつ ・配布資料確認 ・会議の成立 要綱第6条第2項に基づき、委員の2分の1以上が出席していることから、会議の成立を報告。 ・委員長挨拶 以降は、委員長が議事を取りまわす。 (議題1) 食育体験プログラムの報告と反省について</p> <p>◆事務局 資料1により、食育体験プログラムの実施報告を共有する。 各イベントの様子及び反省について、各担当委員から共有する。</p> <p>8月5日(月)実施 摘果ぶどうを知ろう! 青空教室</p> <p>◆事務局</p>	

林委員によるぶどうについての講義では、子どもたちによる質問が多く、積極的に参加している様子であった。

その後摘果作業を行い、ぶどうの収穫体験では、一人ひとりが楽しそうにお気に入りのぶどうを探し、現場では笑顔があふれていた。

反省点として、ホワイトボードが大きくぶどう棚の中に入らなかったことから、駐車場でぶどうの講義を行ったが、とても暑かった点があげられる。次回はぶどう棚の中で実施するなど、講義方法について検討したい。

◇委員

当初、ホワイトボードを用いて子どもたちに丁寧に説明をする予定だったが、暑さの関係で簡潔な質問形式に変更した。

子どもたちからの質問が多く、関心の高さを実感した。このような体験を継続して行うことで、ぶどうや食についての関心がより高まっていくと思われる。

◇委員

参加者が車で来場する際に混乱が生じてしまったため、駐車場について明確に案内すると良い。

暑さ対策が必要である。ぶどう棚の中でも暑く感じた。体験に参加していた子どもたちの笑顔が印象強かった。

7月30日(火)実施 プロに学ぶ!おかしづくり体験

◆事務局

当日は知多メディアネットワーク株式会社による取材もあり、賑やかな体験となった。

普段から家庭でおかしづくりをしている子どもたちが多く参加しており、質問が多く飛び交い、積極的に参加している様子であった。

反省点として、会場のスペースに限りがあり、より配慮をして子どもたちを誘導できたらよかったという点と、実際に子どもたちが体験する作業(材料をケーキの型に流し込む作業、最後のトッピングの作業)が少なく、序盤の説明で子どもたちが疲れてしまったという点があげられる。次回は序盤の説明や実際に子どもたちが体験する内容について工夫を行っていきたい。

7月26日(金)、8月2日(金)実施 夏休み親子料理教室

◆事務局

例年開催している教室ではあるが、今年度はひがしうら Re-Bone グルメ食材の「おから」をピザ生地に、「摘果ぶどう」をサラダのドレッシングに使用し、参加者によりひがしうら Re-Bone グルメについて周知を行った。

教室の最初にそのままの摘果ぶどうを食べてもらい、その後調理後ドレッシングになったものを体験してもらった。摘果ぶどうについてより知ってもらえる体験を盛り込めたと思う。

また、東浦町産の野菜を使用したため、子どもたちに東浦町産の農作物に興味を持ってもらえた。

◇委員

子どもたちにピザの生地をこねるところから体験してもらい、楽しんで参加してもらえた。料理もおいしく作ることができて、好評であった。

◆事務局

普段は摘果ぶどうのアグリーダをソーダ割にして試飲してもらっていたが、今回初めてアグリーダを使用したドレッシングをつくり、料理として楽しんでもらうことができた。

◇委員

参加していた男の子が進んで積極的にお手伝いする様子が印象的であった。子どもたちは皆楽しそうに体験に参加していた。

8月7日(水)実施 〈SDGs〉摘果ぶどうがタンブラーに早変わり！

◆事務局

11人の参加者を3グループに分け実施したため、子どもたちは(株)名古屋精密金型の担当者からの説明をじっくり聞くことができた。

反省点として、蓋づくりの機械では強い力が必要で、小さな子どもでは力不足で失敗してしまうことがあった点があげられる。失敗したときのために(株)名古屋精密金型が事前に完成した蓋を用意してくれたが、事前にそのような状況を想定できておくと良かった。

◇委員

製品がどのような過程を経て完成するのかというものづくりの様子について、子どもたちがどんなに楽しみながら学んでいくのか知ることができて良かった。

8月20日(火)実施 おからって何だろう?おとうふ工房いしかわでお豆腐作りと工場見学

◆事務局

おとうふ作りでは、子どもたちが保護者の方と一緒に、楽しみながら積極的に体験に参加していた様子が印象的であった。おからを使用した商品の試食体験では、初めて食べるものに驚きを感じる子どもたちも多かったが、「美味しい」という声が飛び交い、好評であった。

反省点は、低学年の子どもたちが多く、序盤の説明の際に疲れてしまった点と、工場見学のスペースが狭く、じっくり見学できなかった参加者がいたという点があげられる。説明の時間について、より興味をもってもらえるような時間にできるように工夫していきたい。

8月8日(木)実施 ドリンク売れるかな!?グリーン・ラソで販売体験

◆事務局

子どもたちがアグリーダのソーダ割を実際に作る体験をしたことで、自分の言葉でランチのお客さんに説明ができ、積極的に参加している様子であった。

反省点としては、アグリーダソーダを飲んでもらったお客さんからの試飲の感想を聞くことができると今後に活かすことができるのではという点があげられる。

◇委員

ランチのピーク時はお客さんが40~50人と混雑しており、子どもたちが戸惑っていたが、落ち着いてからは子どもたちが自らランチの説明を行い、楽しみながら参加していた。子どもたちの理解度が高く、実際に体験するということの重要性を感じることができた。多くの人にひがしうら Re-Bone グルメについて知ってもらういい機会となったと思う。

◆事務局

資料1に沿って、アンケートの集計結果、イベント全体の反省点について説明。

それぞれの体験イベントで子どもに向けたアンケートと大人に向けたアンケートを実施した。体験を知ったきっかけとしては「広報」が60%と多かった。残り40%が「学校メルマガ」

「tetoru(学校アプリ)」などのそのほかの方法であったため今後も幅広い方法で周知を行っていけるとよいと思った。体験に参加した理由については「内容に興味があったため」という回答が74%と1番多かった。今後もアンケートを参考にニーズに合ったイベントを実施していくとともに、食育について学んでもらいたい内容を明確にしながら実施していきたい。

大人用のアンケートでは体験に参加したきっかけとして調理体験等では「思い出作り」をしたいという目的からの参加が多くみられた。その中で学んで帰ってもらうためには見せ方や伝え方の工夫が必要であると思った。〈SDGs〉摘果ぶどうがタンブラーに早変わり！では「子どもに学んでほしい」という目的からの参加が多いことが分かった。参加の段階から学習意識が高いことが分かったため、より学んでもらえる内容にできるのではと感じた。摘果ぶどうを知ろう！青空教室では「東浦町の有名なぶどう」というキーワードに興味を持ってくださっている方が多かった。今後、イベントを企画する際に意識していくとよいのではないかと考えた。

イベント全体の反省点として子ども向けアンケートの内容について、当選者への通知方法、体験イベント等の実施時期などが挙げられる。これをもとに来年度の取組について検討いただきたい。

(議題2) 令和7年度の取組について

◆事務局

今後の活動について説明。

来年度は「朝食を食べることを普及する。」と「体験・学ぶ機会の創出」を2本柱とし進めていきたい。内容についてこの委員会で話し合っていきたい。

◇委員長

意見・質問を問う。

◇委員

来年度は今年の内容をブラッシュアップして行うのか。

◆事務局

委員の意見を伺い、検討していきたい。

◇委員

体験プログラムの目的を明確にすべき。最終的な目標は東浦町民5万人の食生活にアプローチしていくことではないか。

地域のコミュニティやサークルの個別の活動なども発信がで

きるようになると良い。それらを集約して発信できるような形があると良い。Instagram を活用し共通のハッシュタグを用いた発信や PR のコンテストを開催し表彰するなど、活動の成果として残りやすい。

イベントの実施マニュアルやレシピサイトを公開し、地域の方主体での活動が生まれ、食についての活動が広まっていくことが理想。

◆事務局

地域の方が主体となって食について考え、色々な活動が広まっていくと良い。今回実施した食育体験プログラムでは、共通ハッシュタグを作成したが、参加者からの投稿がなかった。今後、参加者に SNS を活用した PR に参加してもらえるような工夫が課題である。

今後、朝食についての啓発を行うが、食育体験プログラムと同様に SNS の活用や自宅での食育について力を入れていきたい。

◇委員長

まずは今年度実施した食育体験プログラムの各体験について意見・質問を問う。

◇委員

今回食育体験プログラムに参加した人の中に、重複し応募・参加した人はいるのか。

◆事務局

体験プログラム毎に抽選で参加者を決定したため、重複での応募及び参加した方がいる状況。10月5日（土）に実施した浜内先生の料理教室は、重複を避けて抽選し、参加者を決定した。

◇委員

来年度は食育体験プログラムの実施時期を幅広く設けるのはどうか。

青空教室の参加者からのアンケートで、秋冬のぶどうの手入れ体験をしたいという意見があった。夏のイメージが強いぶどう農家の仕事であるが、体験を通して秋冬の時期は何をしているのか興味を持ってもらえたことが嬉しい。秋冬の時期はぶどうの剪定作業を行うが、ぶどうの枝でクリスマスのリースづくり体験などであれば、子どもたちが楽しみながら学ぶことができるいい機会になるのではないかと。

参加者の重複について、メリットデメリットの両方あると思う。重複がなければより多くの方が体験に参加できるが、1つ体

験することで他の体験にも興味を持ち、参加する動機につながることは良いことだと思う。

体験プログラムにゲーム性を持たせるのはどうか。イベントをポイント制にすることで、イベントの参加率やリピート率が上がる。多くのポイントを集めた人にはライセンスを与える、など工夫できるのでは。

◇委員

食育体験プログラムの実施時期を幅広く設け、ぶどう農家の秋冬の作業をうまく利用すると良いのでは。

◇委員

より多くの子どもたちに食に関する体験に参加する機会を設けてあげたい。より多くの子どもたちに参加してもらえることができるように、食育体験プログラムの開催方法を工夫できると良い。子どもたちを通して、大人たちについても食育の活動に巻き込んでいきたい。食育体験プログラムに参加することで、「地域にこんな居場所があるんだと気付くことができた」という保護者の方の声があった。イベントを単発で終えるのではなく、イベントがきっかけで地域のつながりが生まれるなど、色々な方面に広がっていくことの重要性を感じた。

◇委員長

来年度の取り組みについて、委員の意見を踏まえ、今年度の内容をブラッシュアップして実施していきたい。

◆事務局

前回の食育推進委員会で議論があったとおり、骨折予防というテーマのなかで、来年度からは食という面で朝食について焦点を当て啓発を行っていきたい。

資料2に沿って他自治体による活動を紹介。

◇委員

「ぶどう畑の宵マルシェ」のように、朝マルシェを開催するのはどうか。学校のグラウンドでラジオ体操などの運動を行い、運動後は飲食店によるワンコイン朝食を楽しむことができるようなイベント。

◇委員長

緒川小学校では親子ふれあい事業等を実施している。

◇委員

於大公園で朝マルシェを行うのはどうか。朝食を公園に持参し楽しむ親子が多い。

◇委員

朝活の習慣を付けることが重要。どんな職種の方でも朝に活動することは有用性が高いのでは。マルシェのようなイベントは参加のハードルが低く、食に注目してもらうことができる。

SNS を活用し、多くの方が手軽に参加できるようなキャンペーンがあると良い。ご家庭の朝食自慢など、発信に参加する人が増えるとより広まっていく。影響力の大きいインスタグラマーの方に参加してもらうと発信効果が大きいのでは。

◇委員

SNS を活用し、多くの人を巻き込んでいくことが重要。簡単朝食レシピを公開するなどの企画を実施し、手軽により多くの人に参加してもらいたい。

◇委員

スーパーなどに協力してもらい、目に入りやすい場所に朝食コーナーを設けてもらうのはどうか。朝食コーナーを設ける前後での食材の売上を比較することで、消費者の購買意欲の変化を図ることができる。

◇委員長

スーパーや八百屋さんに東浦町が食育を進めているというポップを表示するだけでも、住民の方に広く周知できる。

◇委員

文化のように、住民全体に朝から活動する習慣が広がっていくのが良い。飲食店に協力してもらい、朝から活動できるような環境づくりを行っていくことができるという。

◇委員長

スーパーや飲食店を巻き込んで、町全体で食育に取り組めると良い。

◆事務局

前回の委員会では、朝食を食べることを普及するということと、体験・学ぶ機会の創出することの2本柱で進めていくことについて共有を図った。

朝食の啓発について、皆様から意見出しを行っていただいている状況であるが、これから実施していくにあたり、ターゲットを絞っていくことが重要。具体的な取組について次回の委員会で検討できるように、本日上がった意見を参考に改めて皆様に考えてきていただきたい。

◇委員長

食育体験プログラムは今年度実施した内容を継続して行うのか。

◆事務局

食育体験プログラムは来年度も継続して実施していきたい。実施にあたり、開催時期の分散や内容のブラッシュアップなど変更点があると思うが、委員の皆様からの意見にもあったとおり、より多くの方が気軽に参加できるようにSNSを活用するなどの形で実施していきたい。

◇委員長

朝マルシェはどのような会場で実施するイメージであるのか。

◇委員

於大公園などの広く、たくさんの方が集まることができるような会場。

◆事務局

参加のハードルが低いイベントであると良い。そのために、どのような内容であれば来場してもらえるのか、検討する必要がある。

◇委員

一からイベントを作り出すのは難しい。部活動やサークルなど、既存の活動団体とタイアップして行うのはどうか。

◇委員

各小学校で開催し、近くの住民にお越しいただくのはどうか。朝集まってラジオ体操を行い、飲食店の出店ブースで朝ごはんを楽しむ。

イベントをポイント制にして、ポイントを集めると飲食店で割引が受けられるなど、何かインセンティブがあるとより参加していただけるのでは。

◇委員

イベントのメインターゲットはどの年代になるのか。

◇委員

ターゲットは東浦町民全員で良いのではないか。

◇委員

インセンティブがあるのであればターゲットを絞り、インセンティブがないのであれば東浦町民全員をターゲットにすることも良いと思う。

◇委員

朝ごはんの提供について、飲食店の営業許可が必要であるのか

懸念される。

◇委員長

朝ごはんを提供するにあたり、その場で調理行為が発生するのであれば保健所に確認する必要がある。

◇委員

朝マルシェのような大々的なイベントを年に複数回実施することは難しい。実施するのであれば、年間を通して規模の小さいイベントを開催し、集大成として最後に朝マルシェのような大きなイベントがあると良いのでは。年間のイベントに関連性を持たせることで、複数回参加すると最後のイベントで何か優遇されるなどの工夫も良いのでは。

◇委員

ぶどう畑の宵マルシェは大人向けのイメージで開催している。朝マルシェと組み合わせて開催すると、双方のイメージが薄まってしまふことが懸念される。

朝ごはんを食べることの啓発であれば、ゲリラ的に実施することが可能であると思う。町内の飲食店に協力してもらい、部活動やサークルに朝ごはんを提供し、感想を聞き PR することができる。

◇委員

まずは話題作りのため、はじめは少人数でも効果があるのでは。

◇委員

水野先生の講話について、東浦町民向けに開催したことはあるのか。

◆事務局

骨折予防月間のイベントの取組の一つで、毎年テーマを変えて実施している。今年は骨粗しょう症対策のため女性向けの講話をしていただいた。

◇委員

若い世代に向けた講演をお願いできると良いのでは。水野先生のお話を初めて聞いた時、気がつきがたくさんあり勉強になった。

◆事務局

昨年は美容をテーマに講話をしていただき、主に 40 代から 60 代の女性が参加された。

◇委員

先生の講話と合わせて、朝食を楽しめるような飲食店の出店を

行うなど、幅広い年代を対象に気軽に参加していただけるような形で開催できると良いのでは。

大々的にお金をかけて実施するのではなく、まずは住民に広く朝食の重要性について知ってもらうことを優先し、町内の飲食店に協力していただく形で開催できると良い。

◆事務局

次回の委員会で、イベントをどのように開催するのか等も含め、朝食啓発の内容について検討していきたい。

(議題3) 令和6年度産業まつりについて

◆事務局

資料3に沿って、産業まつりに出展企画概要について説明。

◇委員長

意見・質問を問う。

◇委員

摘果ぶどうのアグリーダについて、小瓶でアグリーダを提供し、レシピコンテストを開催するなど、今後アグリーダについて広く住民の方に知ってもらうことができるような機会があると良い。

(その他)

◇委員

10月26日(土)開催「ぶどう畑の宵マルシェ～寄ってこ、酔ってこ、良い宵マルシェ～」の進捗状況等について説明。

10月10日(木)に参加申込が締切となり、112件(358名)の申込があり、申込多数による抽選の結果、当選者150名を決定した。申込のきっかけの割合は「学校メルマガ」と「広報」が多くあった。

◆事務局

10月5日(土)開催の浜内千波先生の親子料理教室について報告。

親子18組(36名)が参加し、「鯖缶とおからのまぜご飯」と「鶏もも肉と野菜ジュースのさっと煮」を作った。今後東浦町広報や中日新聞で掲載予定。

また、小学4年生～中学3年生を対象とした食に関するアンケートを11月以降に実施予定。あいち電子申請・届出システムを利用したアンケートである。

	閉会を宣言。
	なし